

パワーあふれる投信会社 社員コメント集

■ その「ひと手間」がいいね! 【運用調査部/大澤】

毎月最終営業日の夜は“月次レポート”の発送作業を行います。一部機械化されていますが、封入作業前後は人手です。数万通の中に稀に空(から)封筒が紛れてしまうと、お客さまにご迷惑をおかけしてしまいます。先日、付き合いの長い上川と一緒に作業をしていると、封筒の束を次工程へ回す際、1通ずつ中身の有無をチェックしていました。ほんの数秒のひと手間が問題を解決しています。早速、私も上川に倣うことにしました。

■ 手書きっていいな 【情報システム部/江藤】

最近、人と自由に会えなくなったからか、手書きの文字にとってもぬくもりを感じるようになりました。そこで今年は初めて万年筆を購入し、また絵手紙も書き始めました。手書きって心が幸せになりますね。書いていたら、小さい頃、母が遠足や大事な試合のときに弁当に手紙を添えてくれたことをふと思い出しました。もらった私も嬉しかったけど、書いていた母も幸せだったのかなと思いました。

■ ガンジス麹町店 【直販部/廣瀬】

昔からインドカレーが好きで、週に一度は食べています。これまでも、通っていた学校や会社の近くには必ず行きつけのお店がありました。中でも、このオフィスの近くにある「ガンジス」は歴代ナンバーワン。もう何人に紹介したか分かりません。味と値段はもちろんですが、テイクアウトの受付をしているインド人とおぼしきおじさんが最高なのです。いつでも元気。いつでも笑顔。その人と話すと、自分まで元気になるような気がします。

■ 食品ロス削減に貢献? 【直販部/大野】

ひとり暮らしで外食が多かったのですが、緊急事態宣言が続く中、近所のスーパーで買い物をする量が増えました。一番増えたのが、閉店近くに半額値札が貼ってある食材。日によって食材が変わります。何も残っていないこともあります。その日にどんな食材と出会うのか帰宅時の楽しみになっています。割安で買った喜びと、食品ロスの削減に貢献しているような気がして(勝手な思い込みですが)、なんともいえない満足感があります。

■ なぜ、食料を寄付するのか? 【運用調査部/佐藤】

コロナ禍で困窮家庭が増えたから、食品ロス600万トンの削減に繋がるから。ただ、根っこは人を想う余裕をもてない自分への苛立ちと、缶詰一つから託せる想いの力を信じたいから。五輪マラソン覇者のキプチョゲは言い続ける。「限界突破には、一人の100%より、チームの力を1%発揮することが重要だ」9/18(土)さわかみファンド運用報告会ではご来場の皆さまから食料寄付を受付けます。一品から始める、より良い未来をご一緒に。

■ 女の子の生態 【確定拠出年金部/利根川】

新しい生活が定着し、人々の消費動向が変わったという話を聞きます。私は圧倒的に自己消費に傾きました。月の自己投資代はネイルやジムなど約3万円。加えてスポットで通うサロンも含めたら更にかかります。人によっては壮大な無駄遣いかと思います。私にとってはこれがそれ以上のリターンをもたらしてくれます。自己満足ですがネイル一つで仕事の手元を見てご機嫌になったり、女の子という生き物をどうか許してください。

■ 祖母の心配 【直販部/三角】

コロナで2年ほど地元宮崎に帰省できていない間に、私は32歳に、祖母は88歳になろうとしています。お互い一人暮らしのため、毎週電話で生存確認を行い、話をする時間がとても大切です。そんな祖母のもつぱらの心配は私の将来と、増え続ける私の体重だそうです(笑)どんな状態でも私は幸せだ!と言い張ってきましたが、会えぬうちに小さくなる祖母を想うと、開き直るのもいい加減にしなければと思わざるをえない8月となりました。

■ 球児たちの熱い夏 【直販部/麥生田】

コロナ禍で開催を危ぶまれた今年の夏の甲子園に、私と同姓の選手が出場した。珍しい苗字なのでどこかで血縁があるのかもしれない。聞くと彼は幼い頃は一緒に練習する仲間が周りにおらず、キャッチボールの相手は祖母だったという。どのような環境でも自分の夢を実現できることを彼は証明してくれたのではないだろうか。私も彼に倣って世の中を豊かにしようと思う。ちなみに私は、高校時代バレーボール部だった。